

# 学力向上に向けた取組

函館市立鱒川小学校

## 1 課題

- 小中併置交のメリットを生かした指導体制の確立
- 深い児童理解に基づいた指導の推進・継続

## 2 課題解決の具体策

- ①小中協力体制を推進する年間・週ごとのシフト表の作成
- ②日常的理解と各種検査による児童理解と、それに基づく協力体制を含めた指導の確立

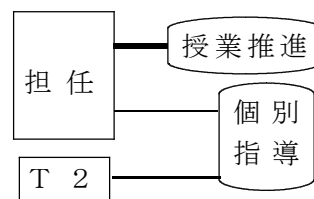
## 3 取り組みの概要

### ①について

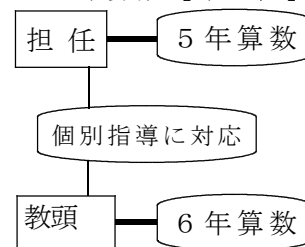
- 時間割作成のための基底表作成において、小中全教員のシフトを組み入れることで小中協力体制を組む。
- 職員の動向も含めた週ごとの小・中学校の教科予定を作成し、時間ごとの協力体制を組む。
- 複式指導をできるだけ2学年同内容の指導とする。同内容化の難しい算数や低学年の国語は学年別指導とする。それらを進めるための新教育課程を作成する。
- 小中とも全員公開授業により、小中を含めた授業研究を進める。
- 長期を含めた家庭学習を活用した反復学習を実践する。  
→これらの取組によって個に寄り添った指導や基礎学力の向上を図る。

3・4年社会・理科・体育、5・6年体育

【同内容化及びTT】



5・6年算数【単式化】



### ②について

- 全児童に、知能検査を実施して、学習方法の適性を探る。
- 全児童に学力検査CRTを実施するとともに、6年生への全国・学力学習状況調査を実施し、学力の実態を把握する。
- 詳細な生徒指導交流会を実施する。

## 4 成果と課題

- 詳細な児童実態把握をもとに、スモールステップ等を取り入れて、子どもに寄り添うきめ細やかな指導を行うことができた。
- 小中協力体制を取り入れたTT指導等が児童の成長に実効的にはたらいている。
- 児童実態や構成が毎年変わり、その年ごとに協力体制を編成しなければならない。
- 基礎学力定着や個に応じた指導のための小中協力体制の再構成を図り、強化を進める。

5・6年算数(単式化)

